滿蒙の農業

田中秀作

一、滿蒙の耕地

茲に滿蒙といふのは滿洲卽ち政治上の東三省と其の西に接壤する東部內蒙古卽ち通常哲里木、卓索圖、昭烏達、錫林郭勒を總稱する東四盟の中未だ滿洲の各省に編入せられない地域を併せたものを指すのである。東三省の面積は滿鐵調査課が種々の原據を比較對照して統一したものに據れば六四二五三方里、同じく東部內蒙古が一〇一六八方里であつて之を合して所謂滿蒙は七四四二一方里の廣袤を有するが此中で耕地は主として松花江遼河の流域を占め東三省で一三四〇〇八〇〇町歩東部內蒙古で二五六四〇〇〇町歩外に可耕の未開耕地が滿蒙を通じて約一千萬町歩程ある。

耕地に適する土性は大部分洪積層と沖積層とであるが北滿地方には概して腐植質の粘土が多く南滿地方には風成土たる黃土を混ずる土壤が多い是等は地方によつて其の性質を異にして一樣に論ずることは出來ないが北滿のは有機物に富み南滿のは鑛物質に富むアルカリ性土壤が多い前者は麥類の栽培に適し後者は豆類の栽培に適してゐる、次に東部內蒙古地方は概して砂質土壤に富み其の一部には砂土地もあるが其は約一割內外に過ぎないから此の方面も地味は概して良好といふことが出來る。

二、氣象一斑

滿蒙は氣候が一般に大陸的であるから夏冬の氣溫の較差が大きく殊に冬季に於ては氣壓の配置上北西部蒙古高原方面に高氣壓を控え東支那海附近に低氣壓を生ずるを常とする上に此の高低兩氣壓の傾度が頗る大となつて北西風が卓越して氣溫を低下し、且つ濕度を小ならしめる卽ち北部では零下三〇度乃至四〇度南部でも零下二〇度内外に降ることがあるっかゝる時期が割合に長く毎年十月の下旬から翌年四月の初旬頃までは續く併し四五月頃から九、十月頃までの間は同緯度の日本内地各地の平均氣溫より高溫で之が滿蒙に於ける作物生育期間であるが春期氣溫の上昇が比較的に遲いのと秋期寒氣の襲來が俄かである事實は作物生育の期間を縮小する嫌がある故に農業に使用せらるゝ日數は約一五〇乃至二〇〇と見做し得べく作物の中でも比較的生育の早い種類が選ばれてゐる、次に滿洲て七八兩月を雨期とし六九兩月に少量の降雨があり十月から翌年五月頃までは殆んど快晴が續いて乾期となるのが常である、而して年雨量は各地を平均した所で六〇〇粍乃至七〇〇粍で日本内地の中庸の約三分の一に過ぎないが作物の發育には不足といふまでには至らない、殊に七八兩月の生育最も盛なる時に多く降り九、十月頃の結實收獲の時期に快晴が續くのは滿洲の農業上有利な點である。

三、主要農產物

滿蒙の土性及び氣象が以上の如くであるから大體に於て農耕に適し普通の溫帶作物は概して能く生育する今主要農產物を擧げると左のやうである。

大豆は滿洲農產物の大宗で奉天吉林の全省黑龍江省の南部に亙り山地丘陵地を除く外は普く栽培せられ其の作付反別約二〇〇萬町歩年產額約二四〇〇萬石に及び南滿六〇％北滿四〇％の割合である。就中開原の東方の所謂東山地方卽ち西豐西安東豐、海龍、輝南等の各縣一帶の高原、長春を中心とする楡樹、伊通、農安、德惠懷德の各縣並に哈爾賓をを中心とする呼蘭、海

倫、巴彥、綏化の各縣地方は其の質に於ても量に於ても他の地方の產に優つてゐる。大豆は大別して黃豆又は元豆、青豆、黑豆等とし其の最も普通なのは含油量が一%乃至二〇%ある黃豆で搾油用、食用等は勿論其の豆油は更に各種工業原料食料等とし、豆粕は肥料家畜飼料として世界的の商品となつてゐる。滿洲は世界の大豆產地卽ち支那、日本、朝鮮等の中の首位にあり世界の總產額の中の約六六%を占めてゐる滿鐵の調査によれば滿洲大豆の地方消費額三八〇萬石播種用一二〇萬石在滿各油坊に於ける搾油用一二〇〇萬石大豆の儘の輸出高七〇〇萬石である。大豆の集散地は大連長春開原、哈爾賓、營口、安東等であるが大連は北方の出口浦港と相對峙して東洋に於ける大豆及び其の系統品の大中心市場である。

高粱も亦北支那滿蒙一般に產するもので本名は蜀黍で高粮紅粮等皆之が俗稱である其の成長するや莖稈の高さ一丈四五尺に達す遼東の山地及び北邊の新開地方を除いて到る處に之を產し其の產額約三六〇〇萬石內南滿七〇%北滿三〇%の割合である。高粱に粳糯の二種があり、粳の中では黑窩子と蛇眼高粱とが大部を占め、是等は精白し飯に炊いて常食となし、又一種の燒酎高粱酒を釀造馬糧にも供す其の莖稈は農家の燃料建築材料アンペラ蓆等用途が廣く近時は又製紙用パルプを得ることも研究せられた。

粟は穀子或は谷子とも稱せられ其の精白したのを小米と稱し高粱と共に主なる常食の料である年產額約三〇〇〇萬石內南滿約五七%北滿約四三%である。

玉蜀黍は通稱を包米といふ磽确の地にもよく生育するので山勝ちの地方でも廣く栽培せられ黃包米白包米の二種がある就中前者が普通で之を挽き割つて小豆綠豆等を加へ粥として常食にし又製粉の料に供し高粱酒釀造の時の混合原料ともなり、稈は燃料に供せられる產額約一一〇〇萬石で內南滿八五%北滿一五%の割合である

小麥は氣候の關係上南滿洲には產額少きも北滿洲地方には多く栽培せられ大豆に對して經濟

上重要視せられゐる、主産地は寧安、伯都訥、哈爾賓、三姓、遼西等の各地方で品種には火麥子、洋麥子、冬麥子、大清芒兒があり米國産等に比し品質劣らず主として製粉の料に供せられ産額は約八〇〇萬石内南滿三〇％北滿一〇％の比を示してゐる、陸稻は古くより栽培せられ品種金線粳子、光頭兒粳子、大青毛粳子、紅毛粳子等がある北緯四五度以南の各地卽ち南は關東州より北は吉林省五常、楡樹の各縣に及び東は輯安縣より西は綏中縣に及び中にも遼陽、瀋陽海城、復、鐵嶺、開原、泛庫、東豐、西豐、柳河、伊通の諸縣を其の主産地とし年産額約三〇〇萬石南滿地方が大部分を占めてゐる。次に水稻の栽培は極めて新しく四五十年來のことで初は鴨綠江を渡つて滿洲に入つた鮮人が從來耕作不能の濕地として棄てゝ顧みられなかつた土地を利用して小規模に營んでゐたが次第に鴨綠江の下中流、間島地方、さては渾河流域の新民附近から北は東山地方の柳河、海龍の諸縣に及んだ、殊に最近に至つて滿鐵會社の研究奬勵によつて奉天、撫順、湯崗子、松樹、五龍背の各地方に水田が開けて來たがまだ現在の所では作付段別は約一萬町歩で年産額は六七十萬石に過ぎないが逐年增加の傾向である、品種は主として朝鮮の在來種を移植したものであるが、滿鐵農事試驗場では日本の東北地方産の龜の尾、早生大野等試作して成績の良好なるを認め是等の中から純型分離法によつて滿蒙の風土に適する優良品種を育成してゐる、而して今や滿洲の沃野は勿論東部内蒙古でも白音他拉地方等に水田を開いて稻作に成功しつゝある、滿蒙を通じて今後開田の見込ある面積は五〇萬町歩乃至一〇〇萬町歩と推定せられてゐる、唯水田としての主要な要件は灌漑の便といふことであるが惜しいことには南滿洲の動脈たる遼河は水量が乏しくて營口は勿論鄭家屯以下の各河港間の水運にさへ差支へるといふ有樣である、そこで最近國際的に設立せられ營口に本部を有する遼河工程局(Liao River Conservancy)は一方に於て下流地方の分流を減じて水量を本流に集中し、盛んに

浚渫を行ひ河道の屈曲をなくする爲に成るべく一直線の運河を以て之を連ねると共に他方では流域の各地に數百の貯水池を設けて水を保存し以て遼河の水源を涵養し交通の便を計るのと相俟つて灌漑面積の增加を企ててゐる、其の下流の浚渫等は英國の技師が主として之に當り上流地方の運河、貯水池の土木事業は日本の岡崎工學博士などが設計し既に一昨年頃から起工せられてゐる、此の大土木工事は主として在支那列國外交團の督促によつて始められ民國政府が營口港に於ける關稅收入其他を以て經費に充てるもので之が完成したら遼河の水運に貢獻するのは勿論同河流域の水田事業は益有望となるであらう。

以上の外相當の產額を有するものに小豆、吉豆、菜豆、黍、大麥、小麥、燕麥、稗、馬鈴薯各種果樹蔬菜類等があり、特用農產物としては大麻、靑麻、胡麻、苞麻、煙草、西瓜種、棉花藍、甜菜等がある就中大麻、靑麻　年產額四千萬斤煙草は五千萬斤を出し、甜菜は最近移植せられたものであるがよく滿洲の風土に適合し製糖原料として將來を囑目せられてゐる。

四、農村の狀態

滿蒙の農業的開發は遠く秦漢の古に始まり、當時南部地方には既に遼東、遼西等の諸郡が置かれ漢族が移住し來つて土地を開墾し農耕其他の生業に就いたことは古史に明かである。其の後も時に消長こそあれ支那本部方面から漢族の農民が流入して開發を續けて來たが淸初になつて土着の滿洲族が故土を空しくして中原へ出づるもの多く一方では淸朝が所謂封禁によつて漢のの入滿を取締つたので一時田園が荒廢したこともあつた、併し其の禁制も後には名のみとなり又淸朝も政策を變更して之を解き更に數回も招民令を發したので漢族の農業的移入は年々增加するに至つたのである。かくして現在出來てゐる農村の起源は次の三に大別することが出來る

(一)滿蒙在來の土着民卽ち滿洲族及び一部の蒙古族又は古くよりの漢人の流民が各一族と共に任

意の地に定着して部落を成し農村を營んだもの(一)清朝になつてから各種の招民令に依つて中國より漢族が團體的に移住し來り府の豫定した地區に農村を作つたもの、(三)滿洲の守備に駐屯せしめられた支那の官兵が其の食を得んが爲に屯田したもの又は其の駐屯地附近に流民を集めて部落を作り之を農村と成したもの、卽ち是である。是等の農村は所謂屯又は會と稱するもので其の形式は多くの農家が一箇所に群集し其の附近に耕地を控えてゐる集團型と一二戸乃至數戸づゝ各地に散點して各自其の住宅の周圍に耕地を所有する莊宅型との二種があるが馬賊其他の襲來に備ふる爲中流以上の農家は周圍に堅固な石垣又は土壁を繞らすか又は土造、石造若しくは煉瓦造の頑丈な家屋の各房を外廓として其中央に院子と稱する廣庭を備へるを常としてゐる每戸の耕作面積は小農で我が六段から二十町まで中農で二十町以上四十町まで大農は四十町以上で時に千五百町を超えるものもある隨つて概して粗放的なるを免れぬ、經營の方法は自作農小作農の二かある前者は其の家族及他より農業苦力を雇傭して耕作するもの、後者に其の小作權を子孫代々傳へる永租と一年乃至九年の期限付の單に租と稱するものとがある、其小作料は勿論地方の事情・土地の肥瘠等によつて一樣ではないが各收獲物の三分の一乃至二分の一を普通とし別に銀納といふて一天地卽ち我が約六段に對し十元乃至三十元を納めるものもある。

農民の經濟狀態は一人當の一ヶ年の生計費各費目を合して平均七拾六圓餘といふ極めて低級な生活をしてゐる割合には收入が多く家族十人の中農にて約二十町歩を耕作する自作農は年純益千六百餘圓、家族七人にて同上の面積の小作農は年純益貳百參拾餘圓を擧げることになる(滿鐵の調査に據る)其の他の階級でも概して其の生活程度に比して利得が多いやうであるが一般に農地の分配が頗る不平均である上農村に於ける金融機關が不備な爲に大農をして益土地兼併の弊を增長せしめ大多數の下級農民は僅かに衣食住の料を得るに過ぎない狀態である。

五、後　語

蓋し農は滿蒙經濟界の基礎であつて滿鐵を始め滿蒙に於ける各鐵道其他の運輸成績は勿論各種の商工業の如きは其の根源を農に置かないものはない。以上述べた內主要農產物たる大豆、高粱、粟、玉蜀黍、小麥の產額は合して約九千萬萬石で其他の雜穀を加へると約一億石に達し一石を平均拾圓と假定しても凡そ拾億圓の生產額がある譯である、滿鐵の專門家の說れよれば之は今後土地の開墾、治水土木事業進捗及び農事の改良增殖等により三倍約參拾億圓とするのは至難ではないとのことである。

斯の如く滿蒙は世界有數の農產地であるから滿鐵會社は夙に農務課を設けて調査研究をなし農事試驗場、苗圃、試作場等を各地に配置して之が發達を促進し、更に農產物利用の方面に就ては中央試驗所に於て研究を進め各種農業家に適切なる參考資料を供給してゐる、併し是等と共に先進國たる我が國の農民を此の地方に移植して開拓に當らしめることは彼我の特殊の關係上極めて必要な擧といふべきである。殊に滿蒙は將來一千萬石以上の米を產するの可能性を有し我が國民の食料問題解決といふ點から見ても此の感を深くせざるを得ない。現在の日支間の滿蒙土地商租に關する條項は餘りに抽象的に過ぎ有名無實の嫌があるから吾人は之を具體化して實施し易いものにするやう當局に愆遷すると共に我が國民が地理上我の接壤地域たる滿蒙の農業的開發の問題に一顧を吝まざらんことを切望する次第である。